未来をつくる人 BOOK1
PEOPLE WHO CREATE THE FUTURE.

2017年10月30日　第1刷発行
2025年9月30日　第2刷発行

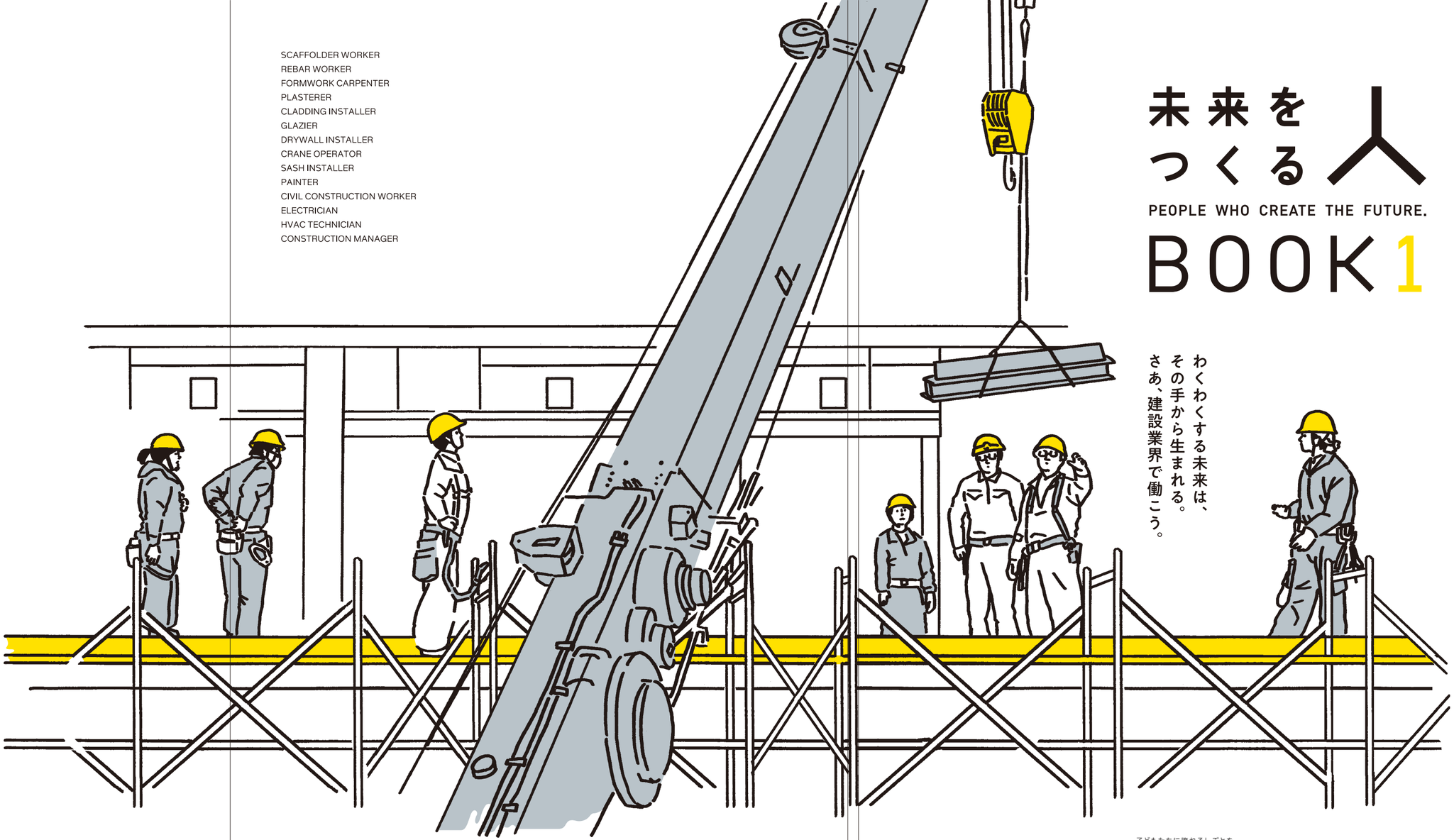
発行元　清水建設株式会社 東北支店
清水建設 東北支店 取引業者災害防止協議会
〒980-0801 仙台市青葉区木町通1丁目4-7
TEL.022-267-9111（代表）
https://www.shimz.co.jp

撮影協力　向井建設株式会社 東北支店
株式会社サンエーテック
松永鉄筋工業株式会社
株式会社江村工務店
株式会社菅野左官店
株式会社ホシカワ 仙台営業所
石井硝子株式会社
みちのく興業株式会社
株式会社エスシー・マシーナリ
株式会社不二サッシ東北
株式会社ナカムラ 仙台支店
佐々木広谷建設株式会社
株式会社石井組
岡崎建設株式会社
株式会社きんでん 東北支社
高砂熱学工業株式会社 東北支店
空調技工株式会社
株式会社大輪通商
小野リース株式会社
株式会社マキタ

公式サイト　Instagram　LINE

©2017 SHIMIZU CORPORATION

SCAFFOLDER WORKER
REBAR WORKER
FORMWORK CARPENTER
PLASTERER
CLADDING INSTALLER
GLAZIER
DRYWALL INSTALLER
CRANE OPERATOR
SASH INSTALLER
PAINTER
CIVIL CONSTRUCTION WORKER
ELECTRICIAN
HVAC TECHNICIAN
CONSTRUCTION MANAGER



未来をつくる人
PEOPLE WHO CREATE THE FUTURE.
BOOK1

わくわくする未来は、
その手から生まれる。
さあ、建設業界で働こう。

子どもたちに誇れるしごとを。
SHIMIZU CORPORATION
清水建設

INDEX

1　未来をつくる現場の職人
4　プロローグ

6　鳶
8　鉄筋
10　型枠大工
11　左官
12　外装
13　ガラス
16　ボード・内装
17　クレーン重機
18　サッシ
19　塗装
20　土木
22　電気設備
23　空調設備
24　現場監督

26　ON & OFF
28　仕事着COLLECTIONS
30　道具COLLECTIONS
32　建設業界あるある

01 鳶（とび）

建設の仕事の礎である足場を築くのが鳶の仕事。仕事の範囲が広く、玉掛け・足場・鉄骨など必要な資格も多いのが特徴です。時には、掘削、埋め戻し、残土処分から山留めなどの熟練を要する作業までを担う、縁の下の力持ちです。

●主な資格／鳶技能士（1級、2級）玉掛け技能講習、足場組立て等作業主任者、鉄骨組立て等作業主任者 等

未来をつくる 現場の職人

THE CRAFTMEN

建設や土木工事の現場では、たくさんの業種、たくさんの会社の人が一緒に働いています。姿かたちからだけでは分からないその仕事について、どんな業種があるか見てみましょう。

02 鉄筋

ビルやマンション、住宅といった建築物はもちろん、橋やトンネル、高速道路などの巨大構造物まで。コンクリートで形成される構造物全般の骨組みである鉄筋を、網目状に組んでいき芯から支えるのが、鉄筋工の仕事です。

●主な資格／鉄筋施工技能士（1級、2級）、登録鉄筋基幹技能者 等

03 型枠大工

鉄筋コンクリートや鉄骨でできた建物の、内装・外装の基礎となるコンクリートを流し込むための“型”を造る仕事です。合板の加工のために、図面を精巧に立体に起こす力など、繊細さが必要とされています。

●主な資格／型枠施工技能士（1級、2級）、登録型枠基幹技能者、型枠支保工の組立て等作業主任者 等

04 左官

左官といえばまずは塗り壁を想像しますが、タイル貼りやレンガ・ブロック積み、コンクリートの床仕上げなども左官仕事の一環。専門技術とセンスが建物の印象を決める現代の化粧師として、集中して作業を続ける精神力や体力も求められます。

●主な資格／左官技能士（1級、2級）、登録左官基幹技能者 等

05 外装

壁や屋根など、建物の屋外側の工事全般に関わるのが外装の仕事。雨や風から建物を守る壁材（金属パネル・ALC・押出成形板など）の施工が主で、建物を美しく見せるサイディングボード貼りや、水の侵入を防ぐ防水加工なども含まれます。

●主な資格／タイル張り技能士（1 級、2 級）等

06 ガラス

建物の開口部に取り付けられたサッシにガラスを嵌め込む仕事です。高層ビルの全面に貼られた大きなガラスなども、ガラス職人さんたちの精巧な仕事の賜物。ほとんどが完全オーダー品なので、取扱いには細心の注意が必要です。

●主な資格／ガラス施工技能士（1 級、2 級）等

07 ボード・内装

居住空間の住みごこちの良さを最終的に決めるのが内装の仕事。建築現場の最終段階で、壁や天井の軽量鉄骨の骨組みとボードの施工、壁紙・床貼りなどの内装全般を手掛けます。技術はもちろん、芸術的なセンスや現代的感覚が活きます。

●主な資格／内装仕上げ施工技能士（1 ～ 3 級）等

08 クレーン重機

建築と土木、両方の現場に欠かせないクレーン。重い物を吊上げ、移動させる移動式クレーンは、資材の配置や鉄骨の組立てはもちろん、工事に付随する揚重作業・機械機器の据付けなどに力を発揮。工期の短縮にも大いに貢献しています。

●主な資格／移動式クレーン運転士免許 等

09 サッシ

建物入口の大型サッシやビルサッシ、住宅サッシ、ベランダの手すりや窓など、サッシ全般の加工と取り付けを担います。壁や床との取り合いに気を配り、ミリ単位の正確さが求められる繊細な仕事。アルミや樹脂、木など扱う材もさまざまです。

●主な資格／カーテンウォール施工技能士（1 級、2 級）、サッシ施工技能士（1 級、2 級）等

10 塗装

壁や天井に塗料や塗材などを施す塗装の手法は、塗るだけでなく吹き付けや貼り付けなど、実に多彩。美しく彩るだけでなく、日光や雨、湿気などによる傷みや汚れを防ぎ、快適性を上げる、いわば建物のメイクアップアーティスト的存在です。

●主な資格／塗装技能士（1 級、2 級）、有機溶剤作業主任者 等

11 土木

トンネル、橋梁、ダムなどの工事で専門的なスキル・知識・経験を身に着け、スペシャリストを目指します。重機の運転、型枠施工、コンクリート打設などさまざまな専門職の人々が関わり公共インフラを作り上げます。資格を取得することで専門性を高め、収入をアップさせることもできます。

●主な資格／ずい道等の掘削等作業主任者、火薬類取扱保安責任者、橋梁基幹技能者 等

12 電気設備

建物全体、そして居室ひとつひとつの照明や空調、エレベーターや生産ラインを安全かつ合理的に機能させるためのプランニング&施工は、まさにライフラインの要。受変電設備や構内配電設備の最適システムも構築しています。

●主な資格／電気工事士（第 1 種、第 2 種）、消防設備士、電気取扱者（低圧、高圧、特別高圧）等

13 空調設備

建物全体の空調設備とそれに付随する配管などの取り付けが主な仕事。いまや第二のインフラともいわれる空調設備は、オフィスや居住空間の快適性を上げるためになくてはならないもの。メンテナンスを含め、需要は年々上がっています。

●主な資格／冷凍空気調和機器施工技能士、配管技能士（1 ～ 3 級）等

14 現場監督

現場監督とは、文字通り建設工事における現場の指揮・指導者であり、すべての作業を把握しながら各部門への指示を出し施工状況を確認する重要な役目です。施工計画の作成や安全管理、品質管理、工程管理など、業務は多岐に渡ります。

●主な資格／1 級建築士、1 級建築施工管理技士、管工事施工管理士（1 級・2 級）、1 級土木施工管理技士 等

未来をつくる人

PEOPLE WHO CREATE THE FUTURE.

**職人ひとりひとりに、
仕事に対する
思いや誇りがある。
だから、
建設業はかっこいい。**

ものづくりが暮らしを支え、ものづくりが人を育て、ものづくりが生きがいとなる。いま、その「ものづくり」である建設・土木の現場で、たくさんの若い人たちが活躍の幅を広げています。かつては「キツイ・汚い・危険」の3Kなどと呼ばれていた現場も大きく改善され、女性たちも大いに進出。そんな先輩たちの生の声を、聴いてみましょう。歴史に、そして人の記憶に残る仕事に打ち込む、職人たちの物語です。

未来をつくる人

鳶（とび）

SCAFOLDER

No.01

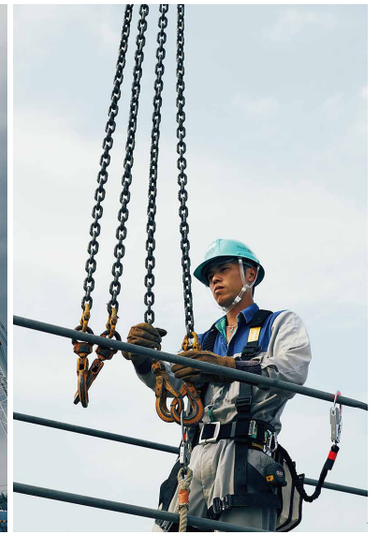
現場の華、現場の要。見えないものを、見通して。

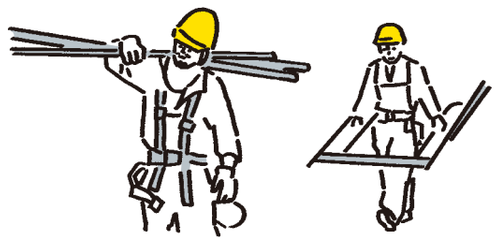
吉田 勇平（32歳）

WHY WE ARE HERE

鳶は、建築現場の華。目もくらむような高い場所で、誰よりも軽やかに、誰よりもスピーディーに仕事をこなしてゆく姿に、いつしかそんな呼び名がつきました。「無茶をしているようなイメージを持たれがちですが、実際は安全第一ですよ。もちろん、及び腰では鳶の仕事は務まりませんが、誰よりも安全には気を配っていると思います。だって、もし事故でも起こしたら、現場がストップしてしまうんですから。鳶として、それだけは絶対にやっちゃいけません」。16歳で入社し、32歳にして鳶17年目のベテランである吉田さんが真摯なまなざしを足場に向けます。鳶というと高所作業の専門職、ということばかりがクローズアップされますが、実際は足場組立のプロであり、現場全体の要でもある重要なスタンス。「足場は、本工事をするために不可欠なもの。だからある意味、誰よりも進捗を読んで、全体像を正確に把握していなくてはいけない。見えないところまでを見通す力が要求されるんです。これが、最初は本当に分からない。入社してすぐは、辛かったですよ。分からないから、言われた通りのことしかできない。歯痒いばかりでした。でも、3年目のある時、ゼロからひとりで足場を組んでみろ、と言われてやってみて、その時に初めて“見えた”んです。“これは俺の仕事だ”という実感ができた。それから、仕事がどんどん楽しくなりました」。今では多くの後輩を指導する立場となった吉田さん。自分の若い時代とは、少しずつ現場にも変化が起きているといいます。「以前は、“見て覚えろ”と自主性に期待することが多かったけれど、今はちゃんと教えることの方が多い。ひとりひとりの速度に合わせて指導して、成長を見守るのが今の現場の主流です。学歴なんて関係ないです。必要なのは、やる気だけ。足場って、建物が完成した時には跡形もなくなるものですよね。でも現場は、足場を組むことに始まり、足場を片付けることに終わるから、最初から最後まで現場に立っているのも鳶なんです。自分の携わった建物が何年もずっと愛され残っているのを見るのは、本当に嬉しくてやりがいを感じる。そんな気持ちを、後輩たちとも共有したいですね」

THE WORKSHOP SCENES





本工事がどのように行われるか、どのように進んでいくか、そしてどう完成するかまでを見越して、実際の現場に合致するように組まなくてはいけないのが足場。高所での作業が安全にスムーズに進むように、自身の安全性を確保することが、工事に携わる人全員の安全の確保に繋がる。

未来をつくる

鉄筋

BARBENDER

No.02

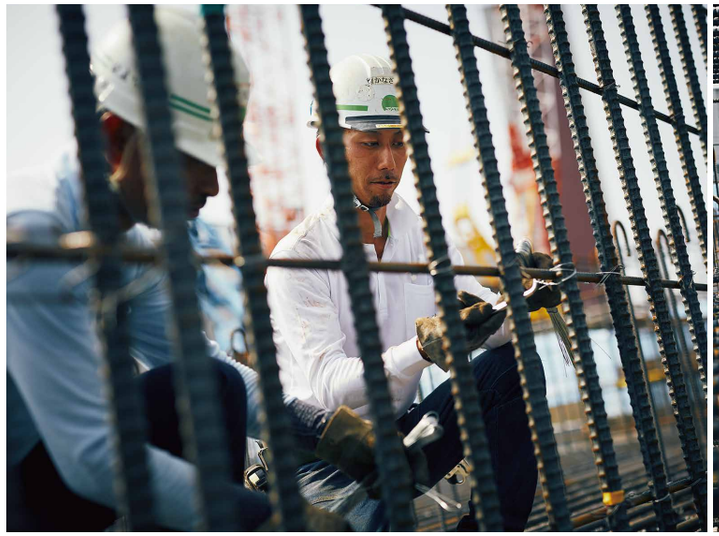
家族のために、自分のために、鉄の重さを肩に背負う。

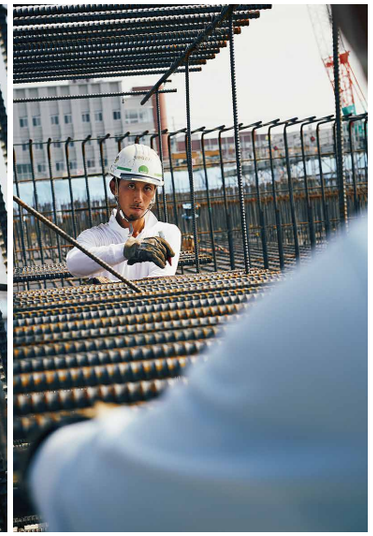
金澤 基行（30歳）

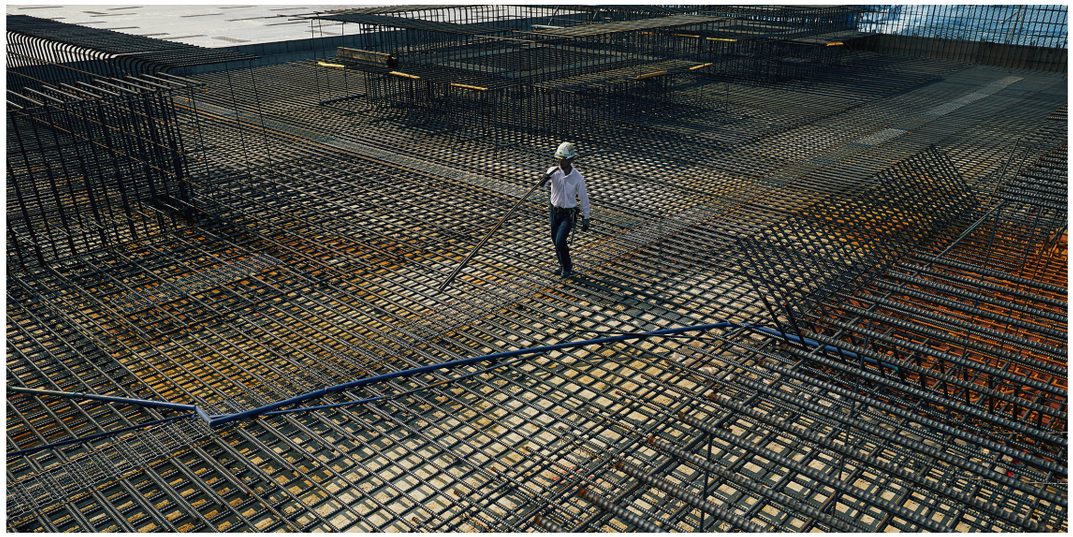
WHY WE ARE HERE

日焼けした身体には無駄な肉も飾りだけの肉もなく、備わっているのは働く男に必要な筋肉とバネのみ。不思議なスタイリッシュさを漂わせる金澤さんですが、「前職は、アパレル関連の仕事をしてました」という言葉に、驚きと納得の両方を感じたのでした。「結婚して、子供ができて、ふたりめの子供が生まれたときに、“この子たちのために、父親らしいことをたくさんしてやりたい”と思ったんです」。アパレル時代は、土・日曜に休めないのはもちろんのこと、休日出勤や深夜までの残業もたびたびでした。一緒に遊ぶことさえままならない日々に、金澤さんは転職を決意します。「鉄筋工という仕事を選んだのは、勤務時間と収入の面からです。この仕事は基本、朝8時から夕方5時までできっちり終わります。だから、子供と一緒に朝ごはんや夕ごはんが食べられて、子育てや家事に参加してもまだ夫婦の時間や自分の時間が持てる。休みもきっちり取れますしね。収入に関しては、それこそこれから子供にたっぷりお金がかかる時期が必ず来るわけですから、しっかり貯金できるくらいもらわないと。鉄筋の仕事は、1tあたり幾らで換算されるんです。重たい思いをすればするほど、お金になって返ってくる。そのシンプルさが気持ちいいですよ。今ですか？ この夏に3人目の子が生まれたので、もう少し頑張らないといけないですかね（笑）」。転職から5年。奥さまと、3人の男の子との生活をしっかりと支えながら、仕事を楽しむこと、熟練を増すことも忘れてはいません。「転職したばかりの頃は、暑さ寒さや鉄の重さと闘う日々でした。また、現場や描く人によって図面にもクセがあり、それを正確に読み取って施工できるようになるまでには結構時間が掛かりましたね。そんな入社して2年目のある日、ふとニュースを見ていたら入学式の様子がレポートされていたんです。それは、東日本大震災で全壊した陸前高田の高校で、自分が新築工事に携わった学校でした。それを見て、本当に嬉しかった。“自分は、人の役に立つ、後世に残るものを作っているんだ”って。子供が大きくなったら、自分がつくった建物を見せて、この気持ちを伝えたいですね」

THE WORKSHOP SCENES







同じ職人の先輩と、仕事中は真剣ながら和気あいあい。先達の仕事を吸収して自らを育てる。肩に背負った重い鉄棒は、一本一本結索されて高層ビルの大切な基礎になる。数百万tという重さを支え、何千、何万という人が数十年にわたって使い続けるための安全性を支えているのだ。

未来をつくる

型枠大工

CARPENTER

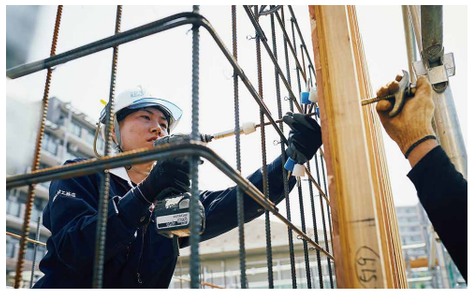
No.03

「女性だから」という不利も得も感じない。ただまっすぐな仕事をするだけ。

赤坂 未来（21歳）

WHY WE ARE HERE

女性で型枠大工という職に就くことを、最初は家族も反対したといいます。「心配してくれてたんですよね。でも、小さい頃からソフトボールと陸上をやっていて、ずっと外で体を動かしていたので、建築現場で働く自分が自然に想像できたんです。高校を卒業して最初は、漠然と介護や調理に関わる仕事を探していたんです。地元の登米町から通えるところで働きたいな、というのが唯一の希望なくらいで、あまりこだわりはなかった。でも、ハローワークで今の会社の求人票を見つけて、“あ、おもしろそうだな”と。どんな仕事かはまったく分かりませんでしたが、何故か惹かれたんですよね」。かくして現場最年少の型枠大工となった赤坂さん。1年がたち、2年がたつ頃にはご家族も彼女の仕事ぶりを信用し、応援してくれるようになりました。「この仕事は肉体労働であり、頭脳労働。基本的には、型枠を造って設置し、コンクリートを流し入れて、固まったら型枠を外す、ということの繰り返しですが、外装と内装を繋ぐ重要なファクターであり、その精度が内装のクオリティにまで関わってくる仕事です。“目違い”で段差が生じようものなら、現場全体の信頼性にも傷がつく。私はまだ職歴3年目ですが、一人前として認めてもらっている以上、責任も一人前にあると思っています。年上の職人さんたちからは、子供か孫みたいに可愛がってもらってますけど（笑）。…現在、外断熱仕様の建物が増えてますよね。私たち型枠大工の仕事の真価が問われる時代が来たと思っています」



建物の内と外を繋ぐ役割を果たす型枠工事は重要なファクター。

未来をつくる

左官

PLASTERER

No.04

大胆にして繊細。新しいものを造り、古いものを守る。

大久保 剛（31歳）

WHY WE ARE HERE

大工だった祖父の背中を追いかけて、工業高校の建築科へ。しかし、大久保さんが就職活動を始めた時、大工という職の求人は圧倒的に少なく、半ば“第2候補”的に選んだのが今の会社だったそうだ。「左官＝壁を塗る、というイメージしかなくて、それでも何だか惹かれるものがあって入った会社でした。実際には、壁だけじゃなく天井も床も対象だし、手法も素材も膨大で、“左官仕事ってこんなに奥が深いのか!”と驚くことばかりでした。入って3年は、見習い期間。たくさんの現場を経験しながら、一人前の左官職人として働けるだけの技術や知識を実践で教えてもらった貴重な3年間でした。その間は給料は少し安いけど、後の数年でリカバーできるだけのものを与えてもらったと思います。左官の仕事には、大胆さと繊細さ、両方が必要で、そのための道具も、30種類以上。それを少しずつ買い揃えながら、自分の手になじませていく。いろんな面で根気がいる仕事だけれど、その分、楽しさややりがいもひとしおです」。現代ではむしろ、マンションや病院、工場などの新築工事での施工が多いのが左官の仕事。「現代建築の中で、左官仕事は脈々と生きています。でも、それと同時に、僕は伝統的なものを守ることにも力を入れていきたい。東日本大震災で被災した古い建築物の改修工事などを手掛けるうちに、やはりこういった伝統的な技術を絶やしてはいけない、と思ったんです。新しいものを生み出すと同時に、いざという時に、古き良きものを守れる力。それを培っていきたいな、と」

水で練って塗り、その乾き具合を見極めての「押さえ」の作業が難しい。

未来をつくる

外装

ROOFER

No.05

本気のやる気と興味が自分の道を開く。

笹原 稔久（41歳）

WHY WE ARE HERE

40歳にして昨年、転職したんです。笹原さんは、曇りのない笑顔でそう言いました。「それまでは、別の会社で現場管理の仕事をしていました。いわゆる元請けの管理部署だったので、たくさんの会社、たくさんの業種、そしてたくさんの職人さんと接してきたのですが、今の会社の職人さんたちと仕事をした時に、「この人たちとずっと一緒に仕事がしたい!」と思ってしまったんです。もう、その情熱と勢いで今の会社に自分を売り込みました」。総合的な元請けの管理から、外装専門会社の管理へ。同じ業界ではあっても、その内容は大きく違ったといいます。「これまでの仕事からさらに一歩も二歩も踏み込んだ、深い専門知識が必要ですね。そしていま、外装工事の現場には、設計段階では分からない、図面にも描かれない部分を現場で発見し、補っていく技術提案が行われています。私がこの会社に惹かれたのも、そういった提案ができる人たちだったから。職人としてのプライドと技術で、図面を超えたクオリティを実現する“人”。そんな“人”に、惚れたんです。実は私、元々は医療事務の仕事をしていました。そこから、建設の仕事に関わりたくて、ガードマンにウレタン吹付、足場掛け、いろんな工種を経て前職の現場管理、そして今の現場管理に就いたんです。正直、40歳での転職は怖くもありました。でも、自分が本気でやる気と興味を持ったなら、恐れず進まなければ。そうすることで、自分の道を開いていくんだと思います」

完成後の瑕疵で一番多いのが雨漏り。だから外装は確かな仕事が必要。

未来をつくる

ガラス

GLASS WORKER

No.06

負けず嫌いがいちばんいい。すべては、現場が育ててくれる。

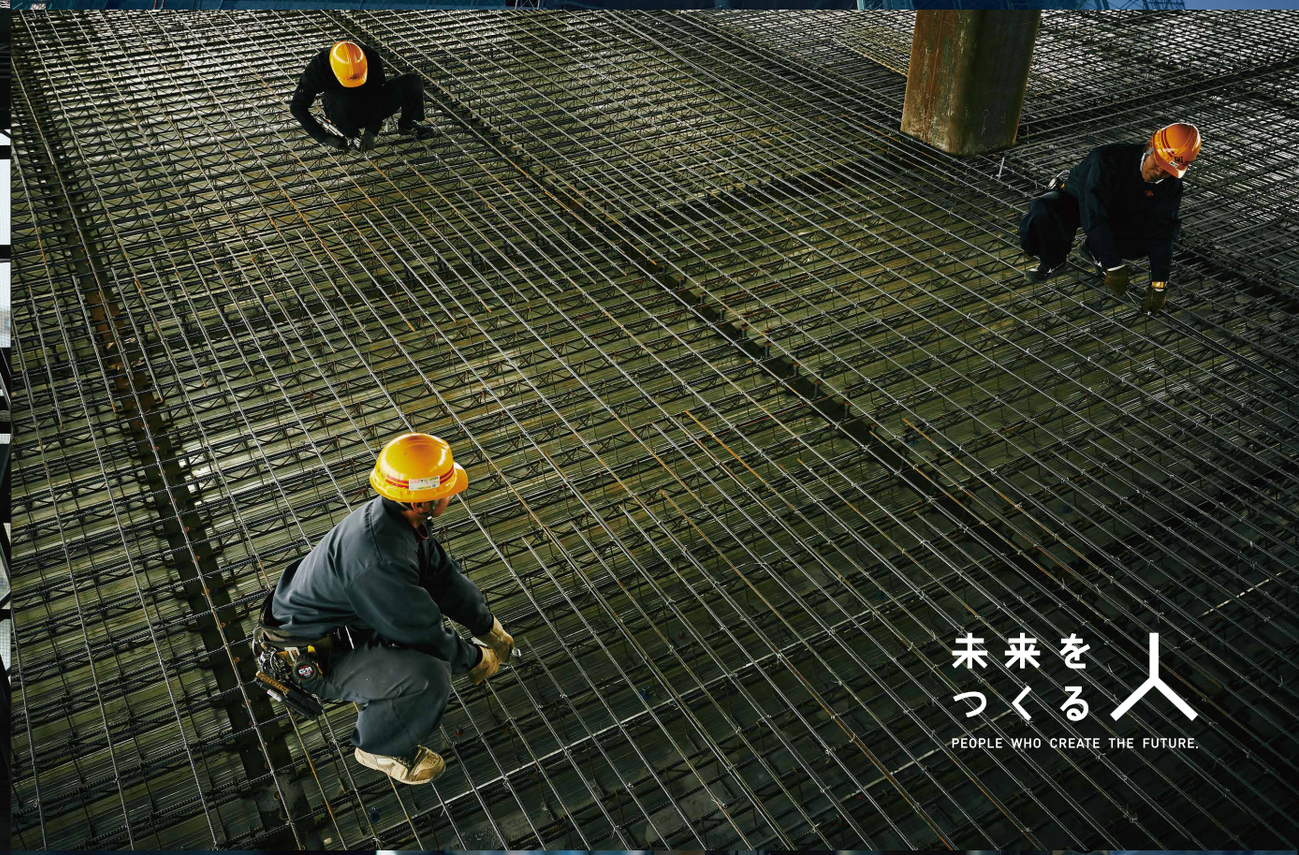
木村 悠希（32歳）

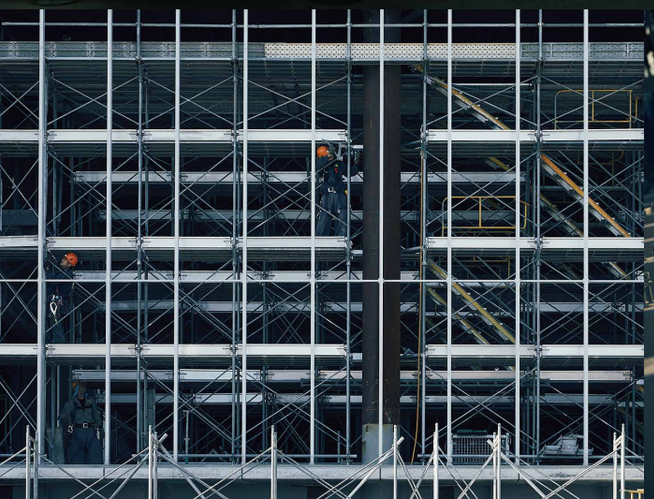
WHY WE ARE HERE

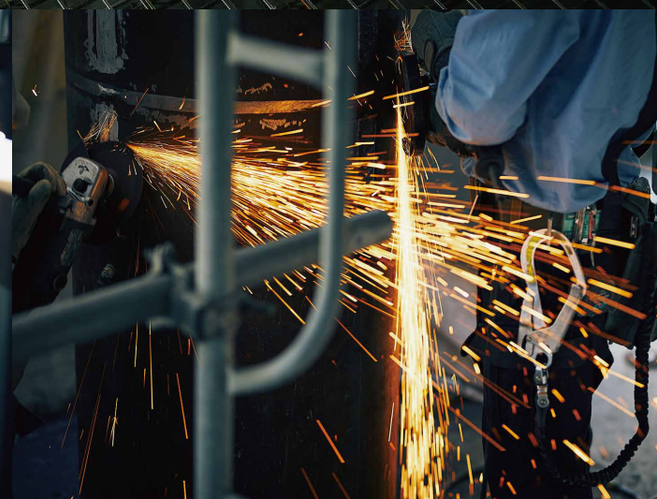
27歳の時に、トラックのドライバーから転職。父の友人だった現会社の人から「やってみないか」と誘われ、ガラス施工がどんな仕事かもよく知らないまま入社したといいます。「単純に“窓枠にガラスを嵌め込む仕事なんだろう”と思って一般住宅の施工を想像していたら、とんでもないサイズのものが出てきた（笑）。これまでに一番大きかったのは、1枚3m四方で600kgのものですかね。ほんと、“こんなの聞いてないぞ”って。でも、本来の負けず嫌いが頭をもたげてきて、“きっちり職人になってやる!”と。あとはもう、ガムシャラに覚えるだけでした」。大きさも重さも甚だしく、しかし割れやすく繊細。そんなガラスだけに、取扱いには細心の注意が必要。「これまでで一番大きなミスは、10枚ぐらいのガラスを、それが入ったパレットごと倒してしまったこと。大人買いならぬ“大人割り”ですね。笑いごとじゃないけど（笑）。でも、現場のみんなも社長も、俺を怒らなかった。むしろ、“ちゃんと周りを逃がして、自分も逃げて、ケガがなかったのが偉い”“ガラスは替わりがきくけど、人の代わりはきかないから”と。ああ、こういう考え方をする人たちだからいい仕事ができるんだなあ、と改めて思いました。俺がやりがいを感じるのは、仕事そのものよりもむしろ、こうした現場の仲間たちと楽しく仕事ができること。建物が完成して、みんなで“ここはああだった”“あそこはこうだった”と語り合う時に、何よりの達成感を感じるんです」

取り付け作業は人力の場合もあれば、機械作業の場合も。

頂上注意


未来を
つくる人
PEOPLE WHO CREATE THE FUTURE.





未来をつくる

ボード・内装

FINISHING WORKER

No.07

何もない空間に「部屋」を創る。その創造性が内装の魅力。

相馬 哲（41歳）

WHY WE ARE HERE

専門学校へ入るまでの、ほんのアルバイト。それが本気の仕事になるとは、思ってもみなかったという相馬さん。「自動車整備士の専門学校へ行くために、叔父の会社で内装のアルバイトをしていたんです。でも、何だかそれがおもしろくなっちゃって。結局、そのまま入社を決めました。内装工事の一番の魅力は、何もないところに壁を造り天井を造ると、途端に“部屋”という空間が生まれること。どんな部屋も自由自在。でっかいプラモデルみたいな感覚に近いですかね。今ではもう、半分趣味か、というくらいに楽しいです」。建築の現場では、内装工事は進行の要。今では、職長代理として現場を取り仕切ることも多いといいます。「スケジュールを先読みし、それぞれの人の性格や仕事の仕方を把握し、資材を効率よく回すこと。そのためには、自分が率先して動かなくてはいけない。山本五十六じゃないけど、やっぱり「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、誉めてやらねば人は動かじ」だと思うんですよね。また、人海戦術が必要な現場では、人が増える分だけ細やかさが必要。段取り、意思疎通、指示系統の確立。現場全体をマネジメントする能力が、問われていると思います。私自身そうでしたが、最初は当然、誰でもうまくはできない。叱られながら褒められながら、その人のいいところが育っていく。自分で自分に限界をつくらない、諦めない人が伸びると思います。それと、出張が多いので、知らない土地や人との出会いを楽しめる人なら、なお向いてますね」

内装は、現場の進行の中心。電気設備や空調設備工事との連携も大切。

未来をつくる

クレーン重機

CRANE OPERATOR

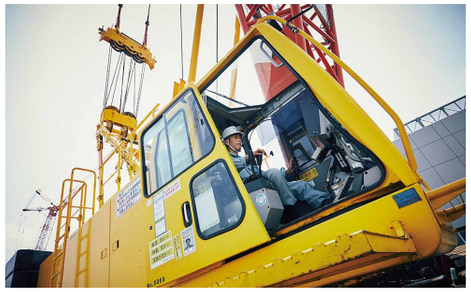
No.08

クレーンには、操作する人の気持ちがあらわれる。

高橋 渉（36歳）

WHY WE ARE HERE

空に溶けるかと思うほどに、クレーンは高い。その94mもの高さ、100tもの重さを、身長173cmの高橋さんが悠々と制する。小さな子供ならずとも、胸が高鳴る光景です。「私も、子供のころからデカい乗り物が好きでした。まさか仕事になるとは思ってませんでしたけど（笑）」。高校の就職活動時に、恩師から現在の会社を紹介され入社を決めた高橋さん。「最初の印象は、ただただ“デカいな”と。乗ってみてすぐに“簡単な仕事ではないな”と思ったけれど、いまもそれは変わらないです。むしろ、熟練度が上がれば上がるほど、乗車するクレーンが大きくなればなるほど、その思いは強まります。クレーンって、自分の気持ちが運転に出てしまうんですよ。イライラしてたり、焦ってたりするとまったく思い通りに作業が進まない。その時は本当に危険ですよ。なにしろ、あの豆粒みたいに見えるフックでさえ、ひとつ370kgもあるんですから。心と時間に余裕をもって、冷静かつ意欲的に運転すれば、丁寧な作業がちゃんとかたちになる。一緒に働く他の職人さんにも、それが伝わるんでしょうね。褒められたり心配されたり、現場はとてもコミュニケーション豊かですよ。…私たちの仕事は常に危険と隣り合わせで、同じ一日は二度とない。だからこそ、日々現場に入り、一日が終わった時。そして、その一日一日を積み重ねた現場が完成し、クレーンを解体して去る時。その時に、“ああ、無事に終わった”という大きな達成感を得るんです」



ビル建設現場の花形ともいえるクレーン重機。運ぶのは鉄筋がメイン。

未来をつくる

サッシ

METAR WORKER

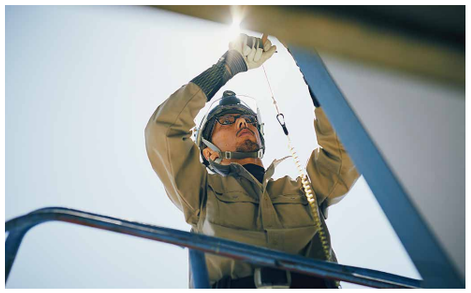
No.09

「見えない部分」を想像する力。ゼロからのスタートも、ハンデはない。

辻本 勝利（41歳）

WHY WE ARE HERE

建築物は、端的に言えば屋根と柱と床、壁と開口部でできています。その開口部に自在な役割を持たせるのが、辻本さんたちサッシ職人の仕事。「工場製作の既製サッシを施工することもありますが、うちの会社は基本、フルオーダー。住宅よりも、ビルの施工が多いですね。この職に就いて最初の頃、まず難解だったのが図面の解読。サッシそのものを搬入する前に図面を見て墨出しをするのですが、これがもう、読み方すら分からないところからのスタートでしたから。他の人の仕事を横から見せてもらって覚えたり、それでも分からないところは休憩中に訊いて教えてもらったり。場合によってはミリ単位の正確さを求められるので、必死でした。そのうちに、現場に対する見方も変わってきて。最初は、“いろんな会社、いろんな年代の人が錯綜してて自分の立ち位置が分からないなあ”と思ってたんです。それまでは、同じ仕事場にいる人は基本、同じ会社の人でしたから。でも、現場の人たちはみんな、役職や序列に関係なくとても面倒見がいい。若い人やまだ慣れてない人への気遣いが、さりげなく行き届いているんです。それに気づいてから、とても気が楽になりました。…俺は元々自動車整備士でしたから、“ミスは命の危険に繋がる”という気持ちが強いんです。やり直しも嫌いだから、“急がば回れ”。もし自分がこの仕事に向いている点があるとしたらそれは、その慎重さと手先の器用さ、二次元の図面を三次元で想像する想像力かもしれませんね」



ピタリと正確にサッシが収まった時、やりがいを感じるといいます。

未来をつくる

塗装

PAINTER

No.10

目に見える技術力。その確かな手ごたえが魅力。

工藤 皓（30歳）

WHY WE ARE HERE

最初は、とにかく人間関係がキツいな、とばかり思っていたという工藤さん。「今考えれば、若さゆえなんですけどね。私が就職したのは18歳の時で、それまでは学生でしたからほぼ同年代プラス家族だけで人間関係が作られていた。それがいきなり何十歳という幅のあるたくさんの人たちの中に飛び込むわけですから、何を話せばいいかも分かりませんでした」。18歳の少年には荒々しく見えた現場の雰囲気も、ひとりひとりの優しさやあたたかさに触れるうち、居心地のいい場所に。地味に重い塗料の持ち運びにも慣れ、難しい塗り分け壁などもこなせるように。そして工藤さんは今、塗装職人を現場で束ねる職長の位置に就いています。「自分が歳をとり、経験を積むにつれて、先輩方が歩んできた苦労や不満、そして楽しさが分かるようになってきた。もちろん、若い頃の自分の不安も。会社も職歴も年齢も違ういろんな人のいろんな気持ちややり方をちゃんと理解して、どういい仕事に繋げていくか。それが今の自分の仕事ですね。そして、ひとりの職人としても、品質重視の仕事を全うしたい。塗装という仕事は、丁寧で正確、確かな技術がダイレクトに見た目の美しさに表れる仕事です。だから、ごまかしが効かない。時代とともに様々な新素材や新工法が登場していますから、日々勉強や研究を欠かさないことも大切。自分が率先して質の高い仕事をすることが、職長としての義務だとも思っています。だって、人より高い給料をもらってるんですから（笑）」

職業病は、新しい仕上げの壁を見るとつい立ち止まってしまうことだそう。

未来をつくる

土木

CIVIL WORKER

No.11

「基礎を支える」ことに誇りを持っています。サビ残や休日出勤はないし、給料もいいし（笑）

米澤 亮（29歳）

WHY WE ARE HERE

ダダダダダ…という重い音と振動が谷底に響く。バイブレーターという機械を使い、米澤さんがコンクリートを締め固めている音です。新たに建設中であるダムのいちばん底の部分、基礎の基礎を固めるコンクリートの打設が、米澤さんの仕事。「この機械、30kgあるんですけど、これで流し込んだばかりのコンクリートに振動を与えて、コンクリートの中の砂利や砂を沈めていくんです。液状のコンクリートの中で、ダンベルを上げ下げしてるような感じですね。それに振動が加わるので、ものすごく腕の力を使う。なので、作業時間とスパンがきちんと決められてるんですよ」。以前は、スーパーマーケットで働いていたという米澤さん。「自分で言うのも何ですが、昇進は早かったと思います。でも、やっと昇給したと思ったらサービス残業が増えて休みがなくなった（笑）。そんな時に、先輩の紹介で今の会社を知ったんです」。20歳で初めてダムのコンクリート打設に携わり、今では堂々たるエキスパート。「ダムというたくさんの人の暮らしを支えるプロジェクトの、その基礎中の基礎」だという現在の仕事に、大きな誇りを感じています。「最初のイメージは、そりゃあ“荒っぽいんだろうな”とか“みんなコワモテなんだろうな”とか。でも、確かに顔の怖い人はいたけれど（笑）、みんなあったかい人ばかりでした。厳しいけれど、優しさがあって。仕事、楽しいです。アフターファイブや休日もちゃんと楽しめるし、給料もスーパー時代の2倍になりましたし（笑）」

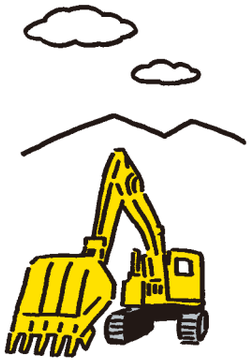
何万立方メートルという巨大なダムも、この足元の一歩から生まれる。

深く切り立ったダム建設の現場。見上げること数十mの頭上をクレーンが往来する。まるで重さを感じさせずに、するすると。「高校を卒業してすぐ、同級生のお父さんの建設会社に入ったんですが、18歳で初めてダムの現場に携わったんです。間近でクレーン作業を見て、“こんなデカいものがめちゃくちゃ速いスピードで空中を行き来してる!”とインパクトを受けて、“いつか自分も動かしたい”と思ったんです」。10年越しの思いが叶い、クレーンデリック運転士の資格を取ったのが昨年のこと。「デカいものをどれだけ時間をかけず、安全に、スムーズに移動させるかが現場のキモ。作業効率が大きく変わります。高低差があって何十mも先の、肉眼では確認できない場所にあれだけの体積と重さのあるものを運ぶんですから、他のスタッフとの連携がとても大事です。お互いに信頼しあってなかったら、事故にだってなりうる。うん。とても奥が深いですよ。俺なんか毎日、先輩たちに怒られてる（笑）。でもそれも、俺に対する愛ですよ、愛」

重い荷を自分の眼では確認できない場所へ届ける。

デカい荷物を運ぶクレーンに、“すげえ！”と圧倒された。

小林 聡志（30歳）



バレーボールも、自衛隊も、そして現在の仕事も。「全部、同じです」と小笠原さんは言います。「建設や土木の“職人”というと一匹狼的なイメージを持たれると思いますが、本当に大切なのはチームワーク。大きな仕事だから、大勢が力を合わせて初めて成果が生まれる。学生時代からのライフワークであるバレーボールをクラブチームで続けているのですが、それも仕事をする上で大いに役立っていると思います」。入社のきっかけは、「自衛隊時代に重機を操作していた経験が活かせると思って」。しかしそれ以上に、人間の営みに欠かせない道路やトンネルをつくる、という社会貢献度の高さに、やりがいを感じているそうです。「この仕事は経験重視に思われがちですが、それがすべてではありません。多少の経験があった私も、最初の一年は道具の準備といった初歩から始めました。道具も工程も、何が必要か、どうして必要かをしっかり知ることができたあの経験が、今になって活きている。要は、やる気。それが、やりがいを生むんです」

自衛隊時代の経験が活きる。かたちを変えて、社会のために。

小笠原 駿（27歳）

何十年、何万人が利用するトンネルや道路をつくる。

未来をつくる

電気設備

ELECTRICIAN

No.12

ごく自然に、
父の後を追いかけて。
現場の仲間たちと、
上達を目指す日々。

菊池 紀開（27歳）

WHY WE ARE HERE

工業高校の電気科に進んだのは、父の仕事が電気設備の管理だったから。「父の仕事をなんとなく身近に感じていましたから。父は“まさかそっちに進むとは”と驚いていたけど、少し嬉しそうだったな」。そして、就職活動の時に今の会社を薦められ、ごく自然な流れで現在の会社に入社したといいます。「入社してみたら、高校で習った座学と現場では全く違っていました。基本的な結線のやり方とかには苦労しませんでしたが、図面通りに精緻に仕事をこなしていく上で必要な施工そのもののルールや手法については、まったくの初心者。ゼロから勉強のし直しでした。うちの会社には独特の教育体制があって、新入社員はみな、兵庫にある研修所で研修を受けるんです。現場で必要な資格を取得するためです。ここでの授業は超スパルタなんですが、楽しかったなあ。あの研修で得た知識や技術が、今の僕の大切な基礎になっていると思います」。必要最低限の資格も、入社から間もなくの間でほぼ取得できるよう体制が整っており、新人の育成にも熱心。菊池さんも、短期間のうちに大きく成長を遂げました。

「電気設備の施工は、内装工事の後をぴたりとついていって作業するもの。自分の都合でスケジュールが決まるわけではないから、その分、正確で速い作業が求められます。そのためには、フットワーク軽く“まずはやってみよう”と前向きにトライできる人と一緒に働きたいですね。普段はめったに触れない珍しい照明器具を取り付けるときとか、楽しいですよ」

壁や天井の裏側に入り、重要なライフラインである電気配線を行う。

未来をつくる

空調設備

AIRCON WORKER

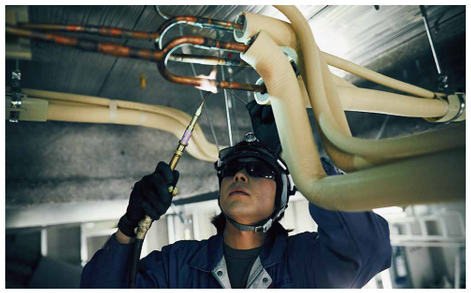
No.13

もはや欠かせないインフラ。
忙しいほど、仕事に燃える。

猿田 圭輔（27歳）

WHY WE ARE HERE

現代生活において、エアコンはもはやインフラといっても過言ではないほどに必要不可欠なもの。猿田さんは、その設置のプロフェショナルです。「単に快適に過ごす、というだけでなく、その建物や部屋の用途によっては、大切な商品を守るものだったり、企業そのものの存在意義に関わるものだったりしますから。病院が、その最たるものですよね。不備や故障が人命にも関わることがあるものだから、細心の注意を払いつつ、設置しています」。機械・電気系の学校を経て、この空調設備の仕事に就いた猿田さん。基礎的な知識や技術は有していたものの、やはり現場は違ったといいます。「自分は、何も知らない最初に大きな現場に携わったので、その時に結構苦労したな、と思います。でもそれは例外で、通常はちゃんと指導者が付いて教えてくれるんですけどね。基本的には何人かのチームを組んで現場に入るので、むしろ必要なのはコミュニケーション力でしょうか。エアコンの設置は、あらゆる配線や配管が収まった後の、最後の最後に行うことが多い。だから、時には頭さえ入っていかないような狭いところに手を伸ばして溶接を行ったり、天井を向きっぱなしで何十分という作業に取り組んだりすることもある。そんな過酷な時でも、笑って話をしながら一緒に仕事ができるのが理想です。工期の中でもだいぶ後半ですから、絶対に遅れられない局面でもある。自分は忙しければ忙しいほどやる気が出るタイプなので、同じタイプの人と仕事がしたいですね」



天井に向かい、配管と配管を繋げるための溶接作業。

未来をつくる

現場監督

ENGINEER

No.14

「建物を建てる」ことの本質にいちばん近い現場が好きです。

小林 由佳里（23歳）

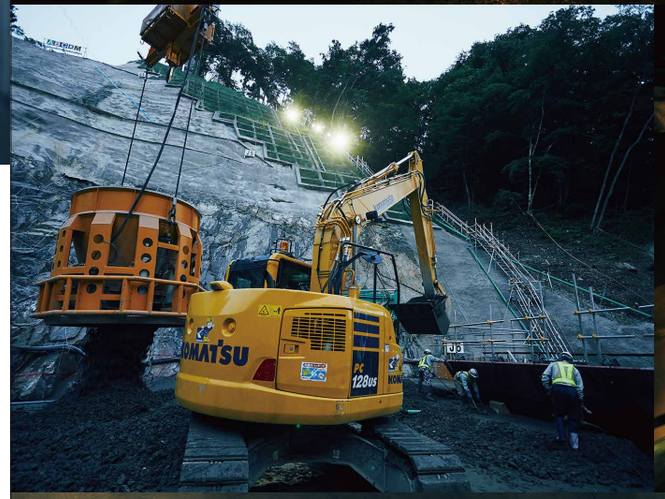
WHY WE ARE HERE

大学入学の時に目指したのは、建築の意匠設計。父と同じ仕事。でも、インターンシップで初めて目の当たりにした建築の現場が、小林さんを「本当の希望」に目覚めさせました。「大学の授業では、建築の歴史や方式を習ったり設計図を引いたりはするけれど、実際の現場に関することは学ぶ機会がなかったんです。だから、先輩が監督を務める現場を見学した時が、生の現場に触れる初めての機会でした。その時に、私たちを引率して歩きながら、たくさんの職人さんたちから話しかけられ、その場でスケッチして指示を出したり、ベテランの職人さんと対等に渡り合ったりしている姿を見たら、“あ、私が本当にやりたかったのは、こういう仕事なのかもしれない”と思ったんです。実際に現場を動かしてるのはこういう仕事で、建物を建てるという実質に一番近い仕事なんじゃないか、って」。入社2年目のまだまだ半人前、と謙遜しながらも、現場監督としての責任感は人一倍。「段取りが一番重要なんだな、ということは日々痛感しています。常に先読みして、同時に後ろを確認しながら仕事を組み立てていかないと、実際に手を動かす職人さんたちのせっかくの技術や速度が活きません。だから、自分が立てた計画によって職人さんたちがいい仕事をできて、かたちになった時の達成感は何よりのやりがいですね。特にわが社が得意としている病院建築は、複雑で多彩、特殊な部屋が多い建築物。これをたくさん経験して、いつかは病院建築のエキスパートになりたいです」

女性があたりまえに活躍できる環境が現場に整っている。

未来をつくる人

PEOPLE WHO CREATE THE FUTURE.



仕事も
遊びも
全力で

ON & OFF

働く大人に必要なのは、仕事に対する一所懸命さとプライベートを楽しむ余裕。
どちらもバランスよく充実させている人の毎日は、こんな感じです。

\ON/

鳶

「子供たちに伝える楽しさも実感。バスケットは一生続けます」

岡部　悟さん（36歳）

広い体育館に、シューズの摩擦音とボールの弾む音が響く。岡部さんが所属するバスケットボールのクラブチームの練習日です。「仕事が終わった夜や休みの日に、チームの練習やスポーツ少年団のコーチをしています。自分でプレイするのはもちろん、子供たちにバスケットの魅力を伝えられることの喜びや楽しさが大きいですね。自分は、24歳の時に今の会社に入ったんです。18歳くらいの時に今の社長が元いた会社でアルバイトをしていたのですが、自分はその後別の職に就いていて。社長が会社を立ち上げる時に、“お前と一緒に、つくっていきたいんだ”と誘われて。たった1年しか一緒に働いていない自分に言ってくれたあの言葉が、自分を決心させたんです」。現場では、鳶職人として時には60人規模の人員に目と気を配っています。「大きな現場だと、人も多いし工期も長い。いろんな人と知り合って一緒に仕事ができるのがおもしろいですね。それに、自分にとって仕事とバスケットの両立は、職場のみんなの理解と協力なしには成り立っていない。仕事も趣味も、チームワークが大切です」

「最近では日本公認レフリーの要請も来ていて、この歳になって分厚い本片手に勉強の日々でした。本業でも鳶の一級試験にチャレンジしたので、そっちでも分厚い本と格闘ですよ（笑）。筋トレにもハマってます」

THE DAY OFF SCHEDULE

6：00	起床
8：00	家を出て体育館へ。ウォームアップ
9：00	ミニバスケのスポーツ少年団で小学生に指導
13：30	昼食
14：00	家族とお出掛け
17：00	翌日の仕事の準備
19：00	夕食
22：30	就寝

\ON/

現場監督

「自然と人のあたたかさに触れる。それがバイクの魅力です」

川野　悠斗さん（23歳）

この春に入社、東北は来たのも初めてだったという川野さん。「会社説明会で出会った先輩たちがとても誠実で、“こういう先輩たちと一緒に働きたい”と、入社を決めました」。郷里の横浜から福島へ引っ越し、現在は液化天然ガス貯蔵タンクの建設現場で施工管理に奮闘する日々。「入社前の印象は、“休みがない業界”。覚悟していたんですが、実際には驚くほどまともに休みが取れる。土曜出勤時には“平日代休を取れ”とお達しが来るし、ノー残業デーには18時を過ぎると“早く帰れ”と叱られる（笑）。自分はONとOFFをきっちり分けたい派なので、とても性に合ってます」。休日には、趣味のバイクで出掛けることが多いそうだ。「最近、初めて会津若松の飯盛山に行きました。連休にはバイクで横浜の実家まで帰ることも。バイクは、風景をダイレクトに見られて、風や海の匂いを感じられるのが好きです。パーキングで見知らぬバイカーに話しかけられたり、ツーリング中に手を上げて挨拶しあったり。そんな交流があるところも好きです。この福島で、バイク仲間の友達をつくりたいですね」。

YAMAHA XJR400R

\OFF/

「最近は自炊も趣味です。炒飯とか生姜焼きとか、簡単に作れるものばかりですけどね。仕事を言い訳にせっかくの趣味を辞めたりしたらもったいないですよ。趣味を楽しむことで、仕事に打ち込める場合も多いですから」

THE DAY OFF SCHEDULE

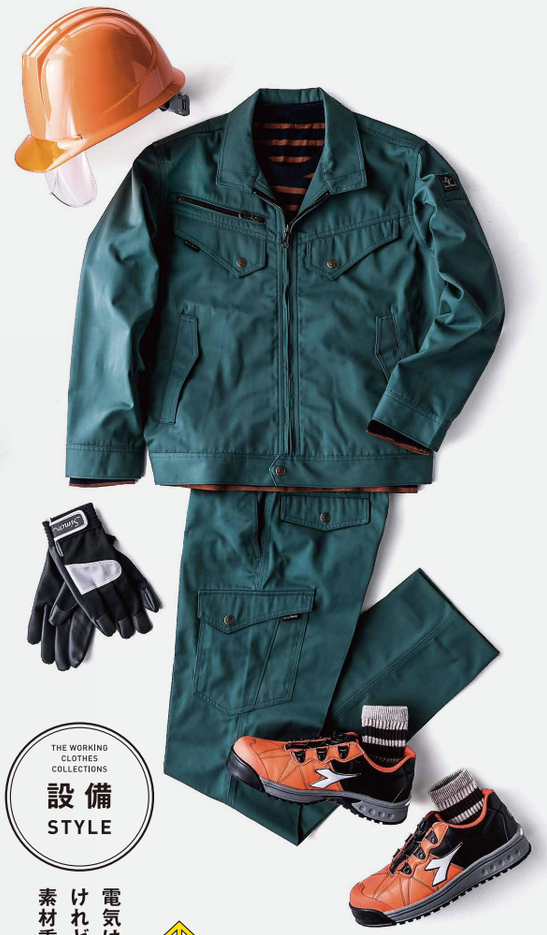
9：00	起床
9：30	掃除や洗濯など家事全般
10：30	愛車の整備
12：00	昼食（自炊）
13：00	バイクで外出
14：30	会津若松に到着
15：00	飯盛山に登る
16：30	カフェで休憩
17：30	会津若松を出発
19：00	帰宅
20：00	夕食（自炊）
24：00	就寝

仕事着 COLLE-CTIONS

ワークウエアに身を包むと、二割三割増しでカッコいい。
必要とされる機能を満たした、用の美の極み。
それでも業種や会社によって、カラーリングやディテールなどに
ほんの少しの遊びごころやおしゃれごころが加わり
スパイスになっているのが、何とも心憎いのです。

THE WORKING CLOTHES COLLECTIONS
鳶 STYLE

風になびく裾のボリューム。
実用性がここに詰まっている



THE WORKING CLOTHES COLLECTIONS
設備 STYLE

電気はともだち、
けれど大敵！
素材重視で安全第一

制電、帯電防止性がある素材を用いた安全第一のユニフォーム。安全靴やグローブといった小物も当然、帯電防止仕様。ヘルメットはベンチレーションなしでゴーグル付きがスタンダード。機械室や天井裏など狭い場所で作業することも多いので、ホコリやチリをぱっと掃え、オイルなどの油分や水分などに対する汚れ落ちの良さにも気を使います。

鳶工や鉄筋工のトレードマークであるニッカポッカ。その由来には諸説ありますが、高所や足元の悪い現場でも足運びの邪魔にならず、危険回避や風圧のセンサーやバランサーとしても一役買っているといいます。カラーはもちろん丈や幅にもさまざまなバリエーションがあり、刺繍や裏地に凝ったオーダーメイドも人気です。

THE WORKING CLOTHES COLLECTIONS
塗装 STYLE

カラフルな塗料を制する、
カンペキ防水・防塵スタイル

作業効率の向上と現場の保全のために、防水性の高いウエアの着用が必須。安全性を高める防塵ゴーグルや防毒マスクも充実しています。さらに、美しい仕上がりと耐久性のために、静電気によるゴミやホコリを寄せ付けない帯電防止性能を持ったものが最新のトレンド。また最近では、カラフルなスニーカータイプの安全靴も増えてきました。

THE WORKING CLOTHES COLLECTIONS
現場監督 STYLE

シンプル・イズ・ベストで
多彩なシチュエーションに対応。

現場での仕事が半分、クライアントとの打ち合わせやデスクワークなどが半分。どちらのシチュエーションにも対応できる、シンプルで折り目正しさを印象付けるスタイルがスタンダードです。筆記用具や計測道具、タブレットなどを携帯できるポケット付きの上着やバッグも人気。百貨店や有名デザイナーが手掛けるワークウエアも多いです。

THE WORKING CLOTHES COLLECTIONS
外装 STYLE

雨風に負けるな！
天気や季節に
打ち勝つ勝負服。

屋外での作業が主になるため、防水性に富んだ素材とデザインが採用されています。長靴や安全靴も、もちろん防水仕様。季節によって、気密性・防寒性の高い冬用と、メッシュ使いなどにより通気性を高めた夏用を使い分ける人も。安全性の確保のため、反射ベストの着用が推奨されています。反射ベストには機能的なポケット付きのものも。

道具 COLLE-CTIONS

職人にとって道具は、分身であり、相棒であり、誇りでもある。
新品で手に入れた道具が少しずつ手になじみ、
やがてお金では決して買えないマイ・オンリーワンになる。
使い勝手の良さと実用性に特化した道具たちのデザインは、
無骨だけれどとてもかっこいいのです。

1.安全帯／高所作業を行う場合に使う、命綱付きのベルト。命綱としてのロープ部分と、支持物に固定するためのフック、落下時に体を保持するベルトで構成されています。主にツインランヤード式とハーネス型とがあり、現場の状況によって使い分けられています。

2.レーザー墨出し器／材木に直線を引いたり、基準墨となる地墨や腰墨を引くために使われる墨出し器も、今やハイテク仕様。レーザーによって水平線や垂直線を投影できます。

3.レーザー距離計／距離、角度、高さ、方位角、傾斜などが高精度・シンプルな操作で測定できます。距離と角度の同時測定で、ピタゴラス測定が可能なモデルも。

4.墨つぼ／木材などのケガキ線として直線を引く道具。木目の凹凸による線の歪みなどがなく、正しい直線を引くことができる建築現場のロングセラーです。

5.ディスクグラインダー／砥石を使って研削を行うグラインダーの一種で、砥石が円板状のディスクになっているのが特徴です。自生作用を有し、金属もコンクリートもパワフルに削り研ぎます。

6.ウォータポンププライヤー／物を掴んだり回したりするのに用いられるプライヤーの中でも、これは主に水道工事の現場で活躍。**7.モンキーレンチ**／ボルトを掴む部分（あご）の幅をウォームギアによって自由に変えられます。**8&9.スパナ**／ボルトやナットなどを締め付けて固定＆緩めて外すための工具。**10.バール**／主に釘抜きの際にてことして利用する鉄製の棒。

11.インパクトドライバー／回転方向に打撃を加えて大きなトルクを発生させることで、余計な力を必要とせず、かつ高速でネジやボルト、ナットの締付けなどが行えます。

12.ハンマードリル／最強力な回転と打撃の併用によって、コンクリートへの穴開けやハツリなども簡単に行うことができます。**13&14.ドライバー**／ねじの締緩作業を行うための工具。先端がマイナス溝（−）のものがマイナスドライバー、プラス溝（+）のものがプラスドライバーと呼ばれています。

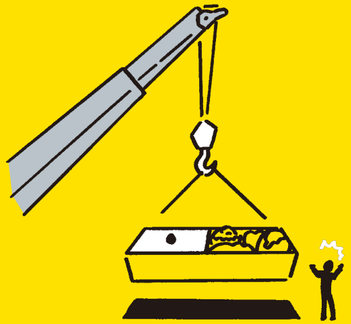
15.工事用黒板／工事の概要を掲示し、認識を共有するために欠かせないツール。スタンダードなチョーク用をはじめ耐水用、マーカー用などさまざまなものがあります。

16.コンベックス／断面が湾曲したテープで長さを測定する、金属製巻尺。特定の長さで留めおけるストッパーを内蔵したものも。

17&18.ハンマー／石割り、はつり作業などの石工作業全般に使用する石頭ハンマー、釘打ちと釘抜きの両方をこなせる仮枠ハンマーやネイルハンマーなど、その用途や対象によって多彩な種類があります。トンカチもハンマーの一種です。

建設業界 あるある

日本全国津々浦々、
人の営みあるところに建設や土木の現場あり。
みなさんの身近にある建設業界ですが、
知っているようで知らない
「あるある」がたくさんあるんです。
知ってるとちょっと自慢、ちょっと楽しい豆知識です。



ある ある 現場にワゴンで売りに来る弁当屋のボリュームがハンパない。

現場での休憩はだいたい1時間のところが多いので、みんな持参のお弁当やコンビニごはんを活用しています。中にはご近所の飲食店やお弁当屋さんがデリバリーしてくれる現場もあるのですが、だいたいどこもドえらいボリューム！　おいしそうに食べる職人さんの笑顔や、「もっと食べたい！」というリクエストに応えるうち、ついつい大盛りになってしまうとか。

ある ある 鳶の親方は、腹巻に札束を入れて持ち歩いていた。

昔から鳶職人は現場の責任者として働くことが多く、その親方ともなれば権限も絶大。しかしそれだけに面倒見もよく、時にはみんなに食事や酒をふるまうことも。そんな時のために、常にそれなりの金額を手元に置いておくのが親方衆の嗜みでした。腕一本、身体ひとつで勝負する職人ですから、自分の身体に密着する腹巻の中が、いちばん安全でいちばん安心できるお財布だったのかもしれませんね。

ある ある 昔は、自分の子供が生まれたら現場を3日間休まされた。

昔は、出産はおめでたいことであると同時に「ケガレ」でもあったんですね。「血」が「ヒ」になり、いつしか「火」になって、「出産のケガレ（ヒ）に関係した者は火を高ぶらせる（火事を起こす恐れがある）から、仕事場に入ってはいけない」という言い伝えになりました。「生まれたばかりの子供と嫁さんとゆっくり過ごせるように」という出産祝い休暇として、復活すればいいのに（笑）。

ある ある 胸ポケットには、ペンのシミがある。

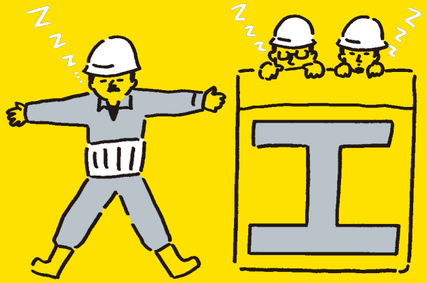
現場では、部材や図面に書き込みをすることも多いから、胸ポケットに筆記用具を挿しておくのがデフォルト。だけど、忙しさの中でついキャップをするのを忘れたり、芯が出たままポケットに戻してしまうこともたびたびなのです。かくしてユニフォームの胸ポケットには、黒や赤のシミがじんわり…。働く人間の勲章、ということにしておきましょう。

ある ある 建設業界では、親方のことを「おやじ」と呼ぶ。

建設会社の社内や現場は、とても家族的なムード。もちろん仕事は真剣そのものですが、それ以外の時には趣味の話で盛り上がったり、一緒にごはんを食べたり、時には本気で意見を闘わせたり、本当の家族より濃い付き合いになることも。そんな時に、場を和ませたり治めたり、頼りになるのが親方。だからみんな、尊敬と親しみを込めて「おやじ」と頼るのです。

ある ある トンネルの貫通石は安産のお守り。

長い長い年月をかけて掘り進めたトンネルが、ようやく貫通したときのその石は、安産のお守りとして妊婦さんの枕元に置かれるのだそう。古事記の中で、神功皇后が遠征の際に得た石を出産のお守りとしたことに由来するもので、「トンネルが石（意志）を貫く」と学業成就のお守りとしても人気だそうです。



ある ある お昼の休憩時間は、昼寝をする。

昼食が済んだら、午後の仕事に備えてしっかり食休み、が現場の常識。早朝からの仕事だった場合には、本気寝に突入することも!?　おや?　現場に職人さんの姿が少ないですね。事務所で休憩かな、と思いきや、ダクトの隙間や空調機の裏側などでお昼寝中。日陰の涼しいところ、静かな場所を知ってるんですね。猫みたい。13時前にはばちりと目を覚まして、準備万端で午後の仕事です!

ある ある 昔は、鳶の親方にお酒を持って行かないと足場を使わせてもらえなかった。

現場の長である鳶の親方に、ご挨拶がわりにお酒を贈り「何卒よろしく」という習慣が昔はあったんです。職人さんたちは目上歳上の人へのふるまいや上下関係に厳しいですから、侮りや軽んじの気持ちがあるとすぐに見透かされ、きっちりお灸を据えられました。その一端が、こうした習慣として表れたのでしょう。今でも、鳶の親方に対する畏敬の念は変わりません。お酒好きな人が多い、ということも、ね。